

### AO合格者インタビュー

村上智哉さん（四谷校）

早稲田大学政治経済学部

（出身高校：郁文館グローバル高等学校）

現在、早稲田大学政治経済学部一年生の村上智哉さん。AO入試の本質を見極め、“受かる為の受験勉強”ではなく“将来に繋げる受験勉強”で勝ち取った彼の合格までのトフルでの勉強、AO 対策、そして現在の大学生について話をうかがった。



#### ■受験が始まるまでは、どんな学生生活を送っていましたか？

トフルゼミナールで本格的に受験勉強を始めるまで、進路について真剣には考えていませんでしたが学校のプログラムで高校2年の時にニュージーランドに一年間留学をしていました。留学や受験対策などで部活などは特にやっていなかったのですが、中学時代はバドミントン部に所属していました。ニュージーランド留学中は奇麗な自然に囲まれて、とても充実した毎日を送っていたので、日本に帰国するのがかいたったのを覚えています。帰国してからもこれからの厳しい受験生活に耐えられるか不安でした。

#### ■トフルゼミナールを知ったきっかけはなんですか？

僕の通っていた高校はグローバル系の高校で、先輩や同級生がトフルゼミナールに通っていたので以前からトフルゼミナールの存在は知っていました。学校の先生達も英語で受験したいならトフルに通った方がいいとおっしゃっていたので、自然な流れで僕も高校一年の時にトフルに進路カウンセリングを受けに行きましたね。

#### ■初めてトフルに来校したときはどんな印象でしたか？

とても親しみやすい塾だという印象を受けました。なにより校舎全体の雰囲気グアットホームで外国の先生や帰国生達に囲まれて勉強が出来る事に魅力を感じました。なので高校2年の終わりにニュージーランドから帰国して直ぐにトフルに通い始めました。

#### ■トフルのカウンセラーとはどんな受験対策をしましたか？

担当のカウンセラーとは具体的に自分の強みや経験をどう生かして受験するかを話し合いました。例えば、僕は政治系の学部に興味があったので、学部は迷う事はなくあとはどこの大学が自分に合っているか、第一志望の大学に合格できなかった時にどこの大学を第二志望にすればスムーズに合格できるかなどいろいろな話をしました。

実際第一志望は慶應義塾大学法学部の政治学科で合格できなかったのですが、今通っている早稲田大学の政治経済学部の国際政治学部と受験スタイルは似ている部分が多くて、不合格と知ったときに全く別の受験対策に切り替える必要もなかったんです。早稲田のAO入試でも自分が対策して来た事が活かされた部分が多くて、良かったと思います。そういった情報などは自分だけでは得られないので、担当のカウンセラーに親身になって相談していただいた事は、とても役に立ったと思います。

## トフルゼミナール

### ■トフルゼミナールでどんな授業を履修していましたか？

僕は TOEFL のスコアを自分のアピールポイントにしたかったので、TOEFL のスコアを上げる為に IBT 対策の授業をメインに取っていましたね。第一志望だった慶應法学部はトフルスコアの提出は必要なかったのですが、ニュージーランドの経験を強みにしたいと思っていたので、TOEFL スコアを志望理由書に組み込みたかったんです。僕はリスニングとスピーキングが苦手だったので、積極的にその対策に打ち込みました。他には小論文や人間力の授業も取っていました。慶應の AO 入試は小論文が必須科目だったので、その対策も充分に立てて頑張りました。結果的に早稲田の AO 入試にも小論文が必須だったので、取っていてよかったです。

### ■AO入試で志望理由書や面接はどのような対策をしましたか？

四谷校の清田カウンセラーに志望理由書や面接をいつも見てもらっていました。そこで清田カウンセラーから自分に自信を持ち流されるなど教えて頂いた事が僕の合格に大きく関わっていると思います。特に僕の場合第一志望だった慶應法学部が不合格になり、後がなくなった状況でも頑張り続けられたのは清田カウンセラーのアドバイスのおかげだと思っています。あと僕は個人的に NPO 団体などが主催しているイベントや学校のイベントの一環でカンボジアに行ったりして自分の人間力や政治に関する知識を高めるよう努力しました。志望学科が政治系なのもあり、その経験が志望理由書や面接で役立ったと思います。

### ■本番（入試）の小論文は対策通りのものが出ましたか？

本番での小論文のテーマは社会学系の問題で、対策していた通りの問題が出ました。たしか絶対的貧困と相対的貧困について述べる問題でした。実は慶應法学部 AO 入試の小論文でも予想通りの問題が出て、受かった！と思っていたんですけど不合格。自分なりに分析したのですが、不合格の理由は気合いが空回りして、素直に書けなかったという風に思いました。そこで早稲田の時はリラックスして思った事を素直に小論文で書くように心がけました、それが合格した要因なんじゃないかって思っています。

### ■面接はどのような対策をしましたか？

カウンセラーの清田さんに教えて頂いたポイントとしてアットホームな空間を作るという事と、模範解答に沿って、他の受験者と同じ回答をしないようにと教えてもらいました。このポイントは、今考えても AO 入試においてとても大事なポイントだったのだと思います。なぜなら AO 入試はテストの点数ではなく個人の人間力をベースに合否を決定するからです。慶應を不合格だった理由もそこが大きかったのではと思います。終わったときは“ちゃんと出来た”自信があったのですが、思い返してみたら他のみんなと変わらない模範解答に沿っていただけなのだ。AO は一般とは違いますから、このポイントは絶対に意識する事が大事だと思います。

### ■本番では緊張しましたか？

早稲田 AO 入試の本番はあまり緊張しませんでした。第一志望が不合格だったので、逆に吹っ切れたというか、もうやりきるしかないって思って受験しました。それだけ頑張っただけ勉強や対策に打ち込んできたという自信もありましたし。

実際面接も教授3人対1人だったんですが、とてもアットホームな雰囲気の中で自分の事を話せ、終わったときにはやりきったとの手応えがありました。

### ■トフルゼミナールで勉強して良かったですか？

もちろん良かったと思っています。そして何よりトフルが現在の自分を作り上げてくれたと本当に感謝しています。今改めて振り返ってもただ漠然と合格する為にトフルに通ったのではなく、将来の自分のしっかりとしたビジョンとか物事に対する明確な意見を持つ手伝いをしてくれた学校だったと思います。トフルで身につけたそのスキルは大学でも発揮されていて、自分のモチベーションの維持にも繋がっています。現在はどう卒業するか、ではなく将来の自分が大学で勉強する事でどうなっていくのかという事を意識して、毎日勉学に励んでいます。

### ■大学生生活は楽しんでますか

今は毎日国際政治経済の勉強は励んでいます。もともと文系だったのもあって、経済の数学の授業は苦戦していますが、なにより自分の将来の為に毎日邁進しています。もちろん楽しいです。トフルゼミナールと一緒に頑張った友達もたくさん早稲田にいたので、今でも連絡を取っています。とくに早稲田に入ってきたと思うのは、留学生の多さですね。ニュージーランドに留学していたのもあって、自分にとってこの早稲田の環境はとても充実しています。

## 受験生へのメッセージ

合格する事を前提に勉強するのではなく、  
自分が今取り組んでいる、  
受験勉強の本質を見極める  
事だと思います。



自分はなぜ今勉強しているのか、AO入試は僕たちの何を見ようとしているのか、そういう事を意識して勉強すれば突破口も開けると思うし、必ず将来に繋がるいい経験になると思います。

僕にとってAO入試は自分の将来のビジョンを考える良い機会だと感じました。志望理由書や人間力の対策をする事で自分の事がわかってきます。例えば、自分には何が出来て、何が出来ないのか。自分はどういう人間なのかなど。それが結果的に受験で他人との差に繋がる。そのプロセスを通り抜けた人が合格できる場所、それがAO入試だと思います。

僕自身もトフルゼミナールでの単純に受かる勉強方法ではなく、価値のある勉強をする事で今の自分があると思います。

みなさんにもぜひ意味のある真の勉強をしてほしいと思います。